

“ Coffee break Talk. コロナ禍に想う...”

支部長 今林 光秀

JSCA 九州支部会員の皆様こんにちは。
本来であればオリンピックイヤーの2020年が、
コロナ禍によりこれまでとは全く違った1年
(1年で済むのだろうか...) となっています。
会員の皆様には十分な活動を提供することが
出来ずに申し訳ない気持ちでいっぱいです。

昨年5月24日支部総会での支部長就任挨拶
において、「かかわりを強くする」をテーマに
皆様にお話しさせていただきました。



JSCA九州での構造エンジニア同士のかかわり、建築他団体とのかかわり、大学等学術とのかかわり、賛助会等とのかかわり、それらを少しだけ強度上げて強くしようと言うものです。その一環として昨年11月23日JSCA法人化30周年記念事業にて九州構造デザイン発表会と九州建築家とのパネルディスカッションを行い、多くの方々の協力を頂き大成功でした。その勢いで2020年もと思っていたところに、コロナ禍が襲ってきました。

他者との交流を抑えざるを得ない状況の中、どのようにして「かかわりを強くする」のか？
たまには少し立ち止まって、自身の内面とかかわってみよう(見つめ直そう)と想いました。

そう言えば、将棋の藤井聡太さん(8/20福岡にて二冠達成)が、「コロナ禍で対局が無い2か月余りの期間中に自身のこれまでの対局を見つめ直すことで進化することができた。」と話していましたが、18歳でこの境地、凄い若者がいるものだと思いを抱きました。

さて、50歳代後半の一般凡人である私が自身にかかわって見つめ直して想ったことは、



それを一言で表すと、“**ありたい姿とあるべき姿**”です。
「こんな空間を創りたい。こんな構造をやりたい。」など、
皆さんと同じようにありたい姿を追いかけてきました。
あるべき姿について、構造設計全般や建築・設備との協調、
コスト合理性など取り組んで来たつもりでしたが、両者
それぞれで考えがちでかかわりが少し弱かった気がする。
本来はありたい姿とあるべき姿をホリスティックに考え
実践し、それを発注者など他者に分かり易く伝えることが
大切!と、恥ずかしながら思い至った次第です。。

今年の建築技術7月号は斎藤公男先生による特集で、
ホリスティックデザインの重要性和エンジニアリングも
志が大事だ!とあります。ぜひ、ご熟読ください。

< 2020年8月末 在宅にて珈琲飲みながら想いを綴ってみました >